

令和4年度 江戸川区立南葛西第二中学校 学校関係者評価 中間評価用報告書

学校教育目標	国際社会に貢献できる人間の育成を目指して ・人権を重んじ自己を敬愛する。(礼儀) ・自主自律の習慣を身に付け将来を目指して自己実現を図る。(自律) ・心身を鍛え、個性の発揚を図る。(自律) ・所属社会の向上と環境改善を目指して着実に努力する。(開拓)	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	「自他を大切にし、自分や社会の目標達成のために、互いに高めあえる学校」 『自分を大切に 人を大切に 今を大切に 未来を大切に』 『学び続ける教師(人)』をモットーに、自らを成長させ続ける教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果> ・落ち着いた学習環境を整備でき、生徒の主体的な活動場面を多く計画実施することができた。・いじめや問題行動への組織的な指導体制が確立できた。特別支援教育への理解が深まり、個別指導が円滑に行われた。 <課題> ・保護者の教育活動に対する関心を高め、生徒の家庭学習の充実を推進する。・不登校解消や不登校の未然防止を徹底するとともに、様々な学習支援の環境を一層整備する。		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		年度末に向けた改善策
					取組	成果	評価	コメント	
いさいと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	7つの主な事業(取組)に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・学習コンテスト:年3回(study weekとの運動、ペーシングドリルの活用) ・放課後補習教室:参加者100名、定期考査前質問教室等:年間延べ60回 ・タブレット端末の利用促進:総合・読書科での利活用	・コンテストにおける「自己目標」の達成率80% ・補習教室出席率:80%、質問教室等参加者:1生徒5回以上の参加 ・成果物(生徒作品)を各自2点以上制作	○学習コンテストは実施できたが、「自己目標」の達成度は低かった。 ○質問教室は実施したが、参加者が少なかった。 ○調べ学習等による成果物を各学年1作品完成できた。	B	C	B	●取り組みを継続しながら、生徒たちの参加率や学力向上に努めてほしい。 学力向上に向けた取組の意義を理解させるために、朝礼等で講話を行い、生徒の意欲を喚起する。
	体力の向上	「運動意欲の向上」に向けた取組の実施・充実	・保健体育科の補強運動:毎時間 体力向上週間の実施:学期に1週間	・生徒による授業アンケートにおける該当設問の肯定的評価80%以上 ・生徒による授業アンケートにおける該当設問の肯定的評価80%以上	○当該質問における肯定的回答は全学年とも90%を超えた。引き続き、体力向上、進捗増進を推進していく。 ○運動会実施により体力向上を図った。2学期は他の活動場面を設定していく。	B	A	B	●体力テストの結果は必ずしも良い成果とは言えない。引き続き、体育の授業や運動部活動を活性化し、体力の向上を目指してほしい。 昼休みに運動できる機会を提供するため、生徒会が主体となって体育開放を実施する。
	読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	・区立図書館との連携及び図書ボランティアとの連携 ・ピピリオオハルの実施:全学年で実施 ・朝読書における「課題図書」:月1回	・生徒貸出し冊数:前年比+20% ・生徒による授業アンケートにおける該当設問の肯定的評価80%以上 ・読書課題への提出率:75%以上	○図書館の利用者は増加しているが、朝読書等の生徒アンケートでは肯定的評価が80%を割る学年もあった。 ○課題図書は1学期は3回実施した。今後も様々な分野の課題図書を提示していく。	B	C	B	●読書が好きな生徒を増やすこと、読書したことを生かして考えることができることなど、読書によって生徒の内面が豊かになり、思考力が深まったことなど、継続的に取り組ませる。 課題図書を読んで終わりにせず、感想を書いたり、自分の考えをまとめたりすること関連付けながら、継続的に取り組ませる。 2学期に行う研究授業において、持続可能な社会の創り手育成に関する教育の充実
	「持続可能な社会の創り手」を育成する教育の充実	・全教科、領域において指導方法を研修を推進	・校内研究授業:年3回9学級すべてで実施	・生徒アンケートによるSDGsの関心度理解度調査:2回目の結果前回比+20%	○夏季休業中の課題として「SDGs」などが10の取組に生徒全員が取り組み、実践意欲が高まった。教科における指導方法の充実が課題である。	B	B	B	●今日的な課題として研究研修を深め、次代を担う人材を育成してほしい。 2学期に行う研究授業において、持続可能な社会の創り手育成に関する教育の充実
特別支援教育の推進	共生社会の実現に向けた教育の推進	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・縦横交流、交流及び共同学習の充実	・特別支援教育推進委員会の活性化:週1回 ・ケールダグンスペースの設置 ・副席交流における交流の充実	・保護者による学校評価アンケートでの認知度:前年度比+20% ・保護者による学校評価アンケートでの認知度:前年度比+20% ・直接交流を学期1回実施	○委員会における情報交換やそれに基づく指導の改善はなされた。 ○保護者アンケートでは、「わからない」の回答が4割を超えていた。支援教育に関する理解を啓発していく。	B	C	B	●特別な支援を要する生徒に対してもきめ細かな支援をお願いしたい。 個別の支援が必要な生徒の保護者との信頼関係を深め、生徒への適切な指導の機会を提供していく。
	子どもたちの健全育成の推進	・子どもたちの健全育成に向けた取組の強化	・校内生徒連絡会…週1回 ・いじめ防止対策委員会…週1回 ・外部情報の共有…月1回	・いじめ継続件数→0 ・不登校生徒数…前年比-50%	○継続的ないじめは発生していない。 ○不登校生徒は微増の傾向にある。 ○いじめの根絶、不登校の解消に組織的に取り組んでいく。	B	B	C	●不登校生徒が増加傾向にあることに対して、危機感をもって取組を強化してほしい。 生徒指導連絡会において、個々の生徒の実情に応じた具体的な対応策を検討し、全校をあげて取り組みを強化する。
学校と家庭、地域、関係機関との連携強化	学校関係者評価の充実	教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施・改善	・生徒による授業アンケート、生活アンケート:年2回 ・保護者による学校評価アンケート:年2回	・全設問において肯定的評価80%以上 ・回答率75%以上	○生徒アンケートにおいては概ね目標を達成できた。 ○保護者アンケートの回収率が上がっていいわい。	B	B	B	●アンケート結果を受けて、課題を分析し、改善に努めてほしい。 保護者アンケートは2学期末の面談時を活用できるようにしたり、連絡メールを活用して周知を図っていく。
	家庭、地域との連携の充実	「信頼される学校」の構築に向けた連携の機会を設定と実施	・地域行事への参加または地域内での生徒の活動:学期1回 ・三者面談:年2回、随時相談:適宜	・地域からの苦情、意見…0 ・保護者による学校評価アンケート:満足度85%以上	○地域行事には吹奏部が参加できた。大きな苦情は寄せられなかった。 ○保護者アンケートの満足度は肯定的評価が78%であった。	B	C	B	●引き続き、地域や保護者からの信頼を得られるように教育活動はもちろん、地域・保護者との連携も充実させてほしい。 校外での生活について生徒たちに指導し、社会性の育成を推進する。
特色ある教育の展開	「学校における働き方改革プラン」	学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	・業務のICT化、ペーパーレス化の推進 ・休暇取得の促進、休暇が取りやすい雰囲気醸成	・定時退勤日:各自月2日 ・定時外在校時間>100時間超職員「0」	○業務のICT化やペーパーレス化は進んだが、座定時外在校時間を短縮できない教員も多かった。	C	D	C	●効率的良い仕事の進め方や業務の均衡化を進め、教職員の健康維持を図ってほしい。 定時外在校時間が基準を超えている教職員と面談を実施し、業務改善について支援を行っていく。
	「学校応援団」との連携	外部人材の活用による教育葛度の充実	・ゲストティーチャー、授業サポート、図書館整備、社会人講話等における人材派遣:年間30人	・学校評議員による学校評価:肯定的回答90%以上	○授業サポート、図書館整備により、教育活動や教育環境の充実が図られた。	B	A	A	●学校応援団を今後も活用してほしい。 2学期は陶芸の授業にゲストティーチャーを招き実施する。また、職業講話の講師を依頼し、キャリア教育の充実を図る。